

3. まちづくり方針

- ・第二次湖南省総合計画後期基本計画に掲げる「まちの将来像」の通り、本格的な少子高齢社会においても「暮らし続ける」ことができるまちであるためには、買い物や医療・福祉施設の利用など日常の生活サービスが充実していること、移動の利便性が高いことが重要です。
- ・本市の特徴として、市街地が分散されて発展していますが、それぞれにおいて住居空間や生活サービス機能がコンパクトに集約され、徒歩や自転車での移動が容易な環境が整っているほか、各市街地が公共交通のネットワークでしっかりとつながっています。また、主な工業集積地が市内および隣接都市に集中していることから、職住においてもコンパクトに生活圏が形成されています。このため、市内での移動距離は地方都市（5～10万人）よりも短くなっているものの、地方都市に散見されるように本市においてもマイカーへの依存度は高い状態となっています。
- ・このように、「暮らし続ける」ことができる環境は現時点でも概ね確保されており、マイカーから公共交通への移動手段の転換も容易な条件が整っています。今後、高齢者を中心に移動手段の転換が進み、徒歩や自転車による移動の機会が増えていけば、健康寿命も延び、新たなステージで元気に活躍する場面も増えてきます。
- ・少子高齢社会においても現在の住み良い環境が維持され、さらに利便性の高いまちへとシフトしていくため、立地適正化計画におけるまちづくり方針を以下の通り設定します。

【まちの将来像（第二次湖南省総合計画後期基本計画）】

ずっとここに暮らしたい！

みんなで創ろう きらめき湖南



【まちづくり方針（立地適正化計画）】

コンパクト＋ネットワークで
“誰もが安心して元気に住み続けられるまちを目指して”

目標1 暮らしやすい持続可能なまちづくり

豊かな自然を背景に、居住機能と生活を支える公共施設や生活利便施設が集積する、暮らしやすいコンパクトなまちづくりを進めます。

目標2 魅力とにぎわいあふれる多様な拠点づくり

JR 駅周辺の中心拠点と分散する市街地の地域拠点との役割分担を進めるとともに、市街地外においては固有の歴史・文化、周辺環境を活かした多様な拠点づくりを進めます。

目標3 つながりを深める便利で快適なネットワークづくり

中心拠点や地域拠点、市街地外の歴史や文化等の拠点を相互に結び、市街地の魅力や活力、にぎわいを創出し高めていくため、自動車交通に依存しなくても生活できる、公共交通を基軸としたネットワークづくりを進めます。

【参考】～都市の将来像検討のシナリオ～

参考1 上位関連計画での位置づけ

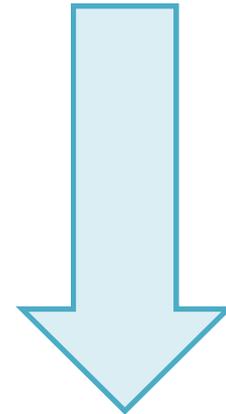
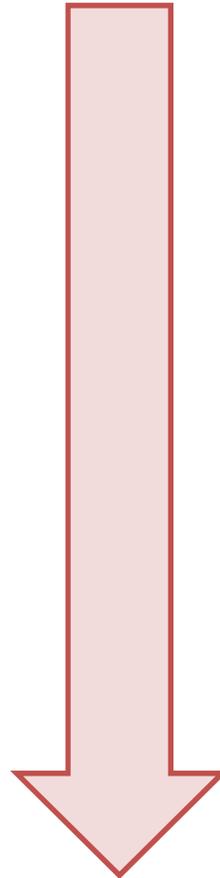
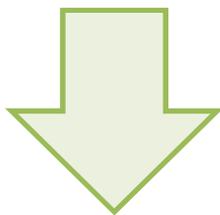
- ・3 駅周辺市街地を中心としたコンパクトな市街地構造の維持を掲げる。

参考2 湖南省の構造的特性

- ・現在の市街地は分散するが、いずれも計画的に市街化誘導されたものであり、極めてコンパクト。
- ・マイカーの利用が主だが、職住が近接するため、移動距離が小さく、コンパクトな生活圏。
- ・市街地のほとんどが公共交通のサービス圏。
- ・生活利便施設の多くは市街地内に、主な行政機能は石部駅・甲西駅周辺に集積。

参考3 将来の見通し

- ・人口密度はほぼ維持するが、65 歳以上人口が倍増。



現状の都市構造を維持し、さらに生活利便性を高める方向

参考1 上位関連計画での位置づけ

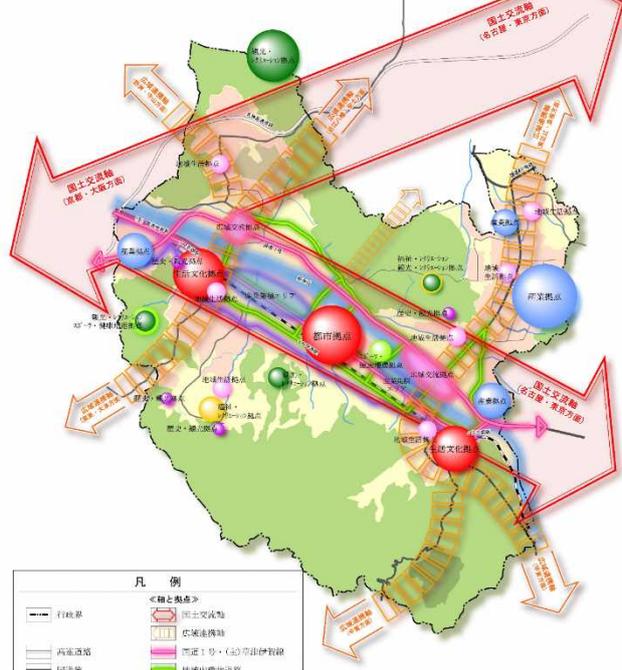
■都市計画マスタープラン（2021.3）

令和3年に改訂された都市計画マスタープランに記載されている内容に変更しました。

都市拠点：より一層、多様な都市機能の集積を図り、歩行者ネットワークや親水拠点の整備など、身近な生活環境の整備・改善に取組み、魅力と活力が感じられる拠点づくりを進める。

生活文化拠点：行政サービス機能や商業・業務機能、医療・福祉機能等の維持・強化を図り、市民の便利で快適な日常生活を支える拠点づくりを進める。

地域生活拠点：行政サービス機能や教育・文化機能などの整備・強化を図り、それぞれの市街地において歩いて行ける身近な生活拠点づくりを進める。



■第二次湖南省総合計画後期計画（2021.4）

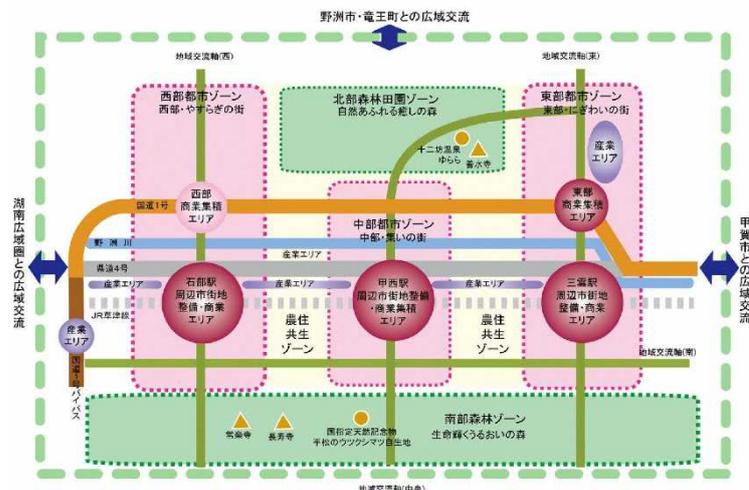
令和3年に改訂された第二次湖南省総合計画後期基本計画に記載されている内容に変更しました。

西部都市ゾーン：行政サービス施設の整備をはじめ、石部駅周辺の機能充実や国道1号バイパス沿いの商業・企業集積、旧街道筋環境整備、農地の保全、河川環境の保全とともに道路ネットワークの整備を進め、やすらぎの街づくりを推進します。（**石部駅周辺市街地整備・商業エリア**）

中部都市ゾーン：甲西駅周辺市街地整備・商業集積や行政サービス施設の整備とともに、河川環境の保全、道路ネットワークの整備、国道1号沿道への産業集積を進め、集いの街づくりを推進します。（**甲西駅周辺市街地整備・商業集積エリア**）

東部都市ゾーン：三雲駅周辺市街地整備、工業団地の環境整備、農地の保全、河川環境の保全などとともに、行政サービス施設の整備をはじめ、住宅地の生活環境の充実と新たな地域交流拠点（商業集積）との交通ネットワークの整備、地域交流拠点への更なる産業集積、商店街の活性化など、にぎわいの街づくりを推進します。（**三雲駅周辺市街地整備・商業エリア**）

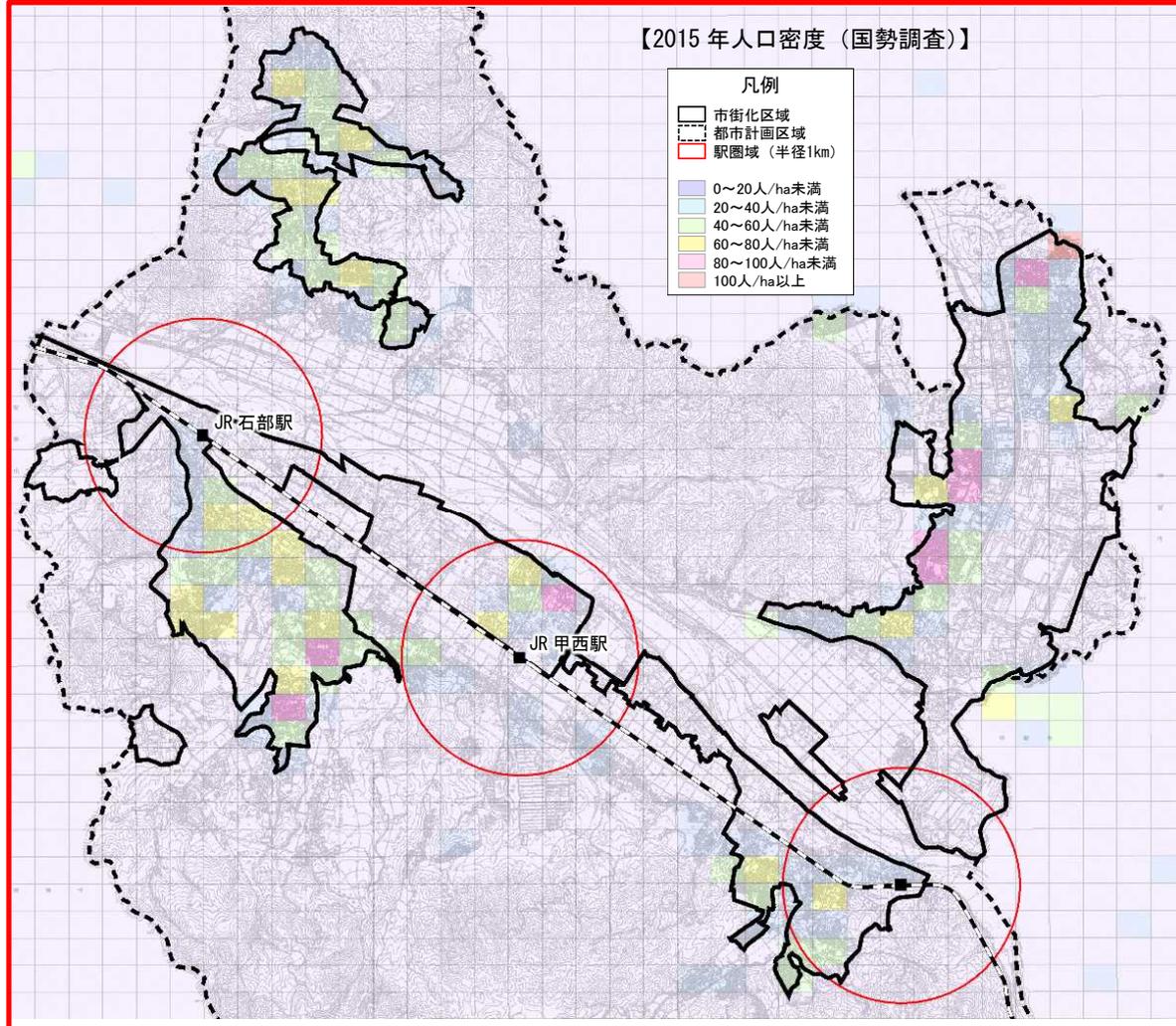
みんなで作る将来のまちの姿



参考2 湖南省の構造的特性

100mメッシュ区分を250mメッシュ区分に変更し、
2010年の人口密度を2015年の人口密度に変更しました。

- ・市街地は分散するが、それぞれが高密度で人口集積し、極めてコンパクト。
- ・JR草津線3駅が開設され、駅と各市街地をコミュニティバスが接続。
- ・自動車への依存度は高いが、職住が近接するため、移動距離が小さく、コンパクトな生活圏。
- ・公共交通の分担率は低いが、公共交通の利便地域の住宅割合は比較的高い。
- ・生活サービス施設は、石部駅周辺、甲西駅周辺に比較的コンパクトに集積。



参考3 将来の見通し

令和2年の国勢調査の結果を追加し
社人研の推計結果を2040年から2045年まで更新しました。

- ・全体的に人口は減少するが、人口密度はほぼ維持。
- ・高齢者人口（65歳以上）は増加し、医療・福祉施設のサービス圏人口は増加。

